殺菌剤

クミアイ トップジンM® 水和剤

農林水産省登録 第11574号

●有効成分：チオファネートメチル 70.0% 殺菌剤分類 1
●毒　　性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

⚠効果・薬害等の注意（抜粋）

●使用量に合わせ薬剤を調製し、使いきってください。
●ボルドー液との混用はさけてください。
●かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、収穫前3週間以内〔かんきつ（みかんを除く）の場合には収穫前2～3週間の間〕に1回散布すると効果的です。
●りんごの腐らん病に対しては、生育期の通年散布としてください。（感染侵入阻止）
●ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
●いちじくに対して灌注処理する場合は、次の事項に注意してください。
　○1ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
　○生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけてください。
●果樹の白紋羽病に対し灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当たり成木では200～300ℓ、苗木では20～30ℓ灌注してください。
●大型散布機で使用する場合には、各散布機種の散布基準に従って実施してください。
●いちごに対して使用する場合には下記の注意を守ってください。
　① 萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守ってください。
　　i)萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組合せで防除すると有効です。
　　ii)灌注する場合は下記の注意を守ってください。
　　a)土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意してください。
　　b)萎黄病は、土壌温度の高い時（20℃以上）に発生しやすいので、地温の高い仮植時期に処理してください。
　　c)土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もありますが、その後の生育や収量への影響は認められていません。
　　iii)苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く（所定時間以上）なると薬害（活着不良）を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守してください。
　②うどんこ病防除に使用する場合は下記の注意を守ってください。
　　i) 株浸漬する場合は下記の注意を守ってください。
　　a)株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものです。うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意してください。
　　b)浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかるように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすってください。
　　c)本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵してください。
　　d)冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理してください。
　　ii)散布する場合は、葉及び果実に汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
●だいずの紫斑病防除には、種子消毒のみでは不十分なので生育期の散布による防除と組み合わせて使用してください。散布は落花後～若莢期に2～3回散布してください。
●れんこんに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
●かんしょ、さといもの種いも消毒後は、水洗せずに薬液が乾いてから植え付けてください。薬剤処理した種いもは食糧・飼料に使用しないでください。
●麦の雪腐病防除に使用する場合、散布液量は10アール当り100ℓが標準です。なお1回散布の場合はなるべく根雪近くに行なってください。
●小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
●水稲の種子消毒では次の注意を守ってください。
　○消毒後は水洗せずに浸種または、は種してください。
　○浸漬処理薬液の温度は10℃以下をさけてください。
　○籾と薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラン網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
　○低濃度（300～500倍）長時間浸漬の場合は、浸漬処理中1～2回かくはんしてください。
　○処理済み種子を浸種するときは次の注意を守ってください。
　　①処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種してください。
　　②浸種は停滞水中で行なってください。
　　③浴比は1:2とし、水の交換はしないでください。ただし液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときは、静かに換水してください。
　○薬剤処理した種子は、食糧、飼料に使用しないでください。
●アスパラガスの茎枯病防除は、収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象としてください。
●カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用後14日間は入水しないでください。
●チューリップの球根粉衣は、植付前又は貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣してください。
●たばこの親床での処理はは種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布してください。
●過度の連用をさけ、作用性の異なる薬剤と組合わせ、輪番で使用してください。（耐性菌出現回避）
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないでください。
●本剤を使用した場合には、ベノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種籾への処理及び塗布処理は除きます。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
●使用方法などを厳守してください。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

⚠安全使用上の注意

●眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
●使用の際は、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに、衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯してください。
●かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
●街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に、小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう、縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

⚠常温煙霧の場合の注意（ハウスなど）

●専用の常温煙霧機により、所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
●作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉してください。できれば翌朝までとしてください。
●常温煙霧中はハウス内に入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分に換気した後に入室してください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記帳しましょう。

2445（24-11）

JAグループ 農協 全農 経済連
全農は登録商標 第4702318号

自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社：東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL03-3822-5036
ホームページアドレス https://www.kumiai-chem.co.jp

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。

殺菌剤

クミアイ トップジンM® 水和剤

クミアイ トップジンM 水和剤

■適用病害と使用方法

※収穫開始後は使用しない

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	総使用回数* 本剤	総使用回数* チオファネートメチル	使用方法
かぼちゃ	白斑病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	5回	6回（種子への処理は1回は種後は5回）	散布
きゅうり	菌核病、黒星病	1,500～2,000					
	炭疽病、うどんこ病、つる枯病						
うり類(漬物用)	灰色かび病						
にがうり	炭疽病、斑点病						
すいか	炭疽病、菌核病						
トマト、ミニトマト	葉かび病、菌核病、灰色かび病						
アスパラガス	茎枯病、立枯病	1,000		収穫開始7日前まで※			
なす	灰色かび病、黒枯病、菌核病	1,500～2,000		前日			
ピーマン	黒枯病、炭疽病	4,000～6,000			3回	4回（種子への処理は1回は種後は3回）	
ししとう	黒枯病	10,000				3回	
メロン	つる枯病、陥没病、菌核病	1,500～2,000				5回（種子への処理は1回、塗布は1回、散布は3回）	
にら	白斑葉枯病、乾腐病	1,000	3ℓ/m²	21日	1回	2回（種子への処理は1回は種後は1回）	灌注
レタス	ビッグベイン病、菌核病	1,500	1.5ℓ/m²	45日		4回（種子への処理は1回、灌注は1回、散布は2回）	
	すそ枯病		100～300ℓ/10a	7日	2回		散布
	菌核病、灰色かび病	1,500～2,000					
非結球レタス				21日		3回（種子への処理は1回は種後は2回）	
はくさい	菌核病			7日			
	白斑病、炭疽病	1,500					
セルリー	斑点病			60日			
せり	葉枯病			14日			
キャベツ	根朽病、株腐病	1000		3日			
	菌核病	1,000～1,500					
ブロッコリー	菌核病、根朽病	2,000		14日			
カリフラワー	菌核病			前日			
れんこん	褐斑病	1,500			3回	3回	
オクラ	葉すす病					4回（種子への処理は1回は種後は3回）	
ズッキーニ	うどんこ病						
いちご				収穫開始21日前まで※			
		1,000	—	株冷蔵栽培の株冷蔵前			5分間株浸漬
	萎黄病	300～500		仮植前			1時間苗根部浸漬
			3ℓ/m²	仮植時及び仮植栽培期			灌注
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1,000	100～300ℓ/10a	14日			散布
たまねぎ	小菌核病、灰色腐敗病	500～1,000		前日	6回（定植後は5回）	7回（種子への処理は1回 苗根部浸漬は1回 無人航空機散布は3回、散布は5回）	
	灰色腐敗病	500	—	定植直前			5分間苗根部浸漬
ねぎ	萎凋病、黒腐菌核病、小菌核病 小菌核腐敗病	1,000	100～300ℓ/10a	7日	3回	5回（種子への処理は1回 苗根部浸漬及び苗床灌注は合計1回 散布及び株元散布は合計3回）	散布
	萎凋病、黒腐菌核病、小菌核腐敗病	250	チェーンポット1冊(30×60cm、土壌量約5ℓ)当り0.5～1ℓ	定植直前	1回		苗床灌注
	萎凋病、小菌核腐敗病	20	—				3分間苗根部浸漬
		200					30分間苗根部浸漬
らっきょう	乾腐病	1,000	700mℓ/m²	7日	3回	3回	株元灌注
しょうが	いもち病、白星病		100～300ℓ/10a		2回	2回	散布
食用ゆり	鱗茎さび症	50	—	植付前	1回	1回	球根瞬間浸漬
食用ぎく	褐斑病	1,500	100～300ℓ/10a	28日	2回	3回（種子への処理は1回は種後は2回）	散布
食用べにばな(花)	炭疽病			14日			
みつば	菌核病	2,000		14日(ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで)			
みしまさいこ	炭疽病	1,000		30日			
甘草	株枯病	200	—	植付前	1回	1回	30分間苗浸漬
たばこ(苗床)	腰折病	1,000～2,000	2ℓ/m²	苗床期	2回	2回	散布
	黒根病	1,000					
たらのき	芽枯症	2,000	0.1～0.3ℓ/m²	伏せ込み後萌芽前(21日)	1回	3回（伏せ込み前は2回 伏せ込み後は1回）	駒木散布
	そうか病	1,500	200～700ℓ/10a	伏せ込み前(60日)	2回		散布
あけび(果実)	うどんこ病	1,000		7日	3回	3回	
みかん	そうか病	30	8ℓ/10a	4～6月	5回	8回（塗布は3回、散布・空中散布及び無人航空機散布は合計5回）	空中散布
	灰色かび病、そうか病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日			散布
	貯蔵病害(黒斑病)	2,000					
	貯蔵病害(青かび病、緑かび病、軸腐病)	2,000～3,000					
かんきつ(みかんを除く)						8回（塗布は3回、散布及び無人航空機散布は合計5回）	
	貯蔵病害(黒斑病)	2,000					
りんご	輪紋病、すす点病、すす斑病 腐らん病、モニリア病(実腐れ)	1,000～1,500			6回	10回（塗布は3回 灌注は1回、散布は6回）	
	黒星病、黒点病、褐斑病、うどんこ病	1,000～2,000					
	白紋羽病	500～1,000	—	休眠期～生育期	1回		灌注
りんご(苗木) な し(苗木)		500		植付前		6回	10分間根部浸漬
		500～1,000		休眠期			灌注
なし	黒星病、うどんこ病	1,000～2,000	200～700ℓ/10a	前日	6回	11回（塗布は3回、灌注は1回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回）	散布
	腐らん病	1,000					
	輪紋病、心腐れ症(胴枯病菌)、胴枯病	1,000～1,500					
ぶどう	黒とう病、灰色かび病、褐斑病、うどんこ病	1,000～2,000		45日	1回	5回（塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は1回）	
	晩腐病、芽枯病	1,000					
	苦腐病	1,000～1,500					
びわ	白紋羽病	300～500	—	収穫後(7月上旬～9月上旬)		7回（塗布は3回 散布は3回、灌注は1回）	灌注
	ごま色斑点病	800	200～700ℓ/10a	14日	3回		散布
	灰斑病	800～1,000					
かりん、マルメロ	腐らん病	1,000～1,500		前日	6回	9回(塗布は3回、散布は6回)	
おうとう	灰星病、せん孔病、幼果菌核病			14日	3回	6回(塗布は3回、散布は3回)	
かき	炭疽病、落葉病、うどんこ病 黒星落葉病、すす点病			前日	6回	10回（塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回）	

＊印は、収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びチオファネートメチルを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	総使用回数* 本剤	総使用回数* チオファネートメチル	使用方法
もも	灰星病、ホモプシス腐敗病、黒星病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日	6回	10回（塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回）	散布
	枝折病、うどんこ病	1,000					
もも(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前	1回	7回(散布は6回)	10分間根部浸漬
小粒核果類	すす斑病(うめ)	1,000	200～700ℓ/10a	21日	3回	すももは6回（塗布は3回、休眠期の散布は1回 生育期の散布は3回） その他の小粒核果類は6回（塗布は3回、散布は3回）	散布
	灰星病、環紋葉枯病、葉炭疽病、黒星病 黒粒枝枯病	1,000～1,500					
いちじく	黒葉枯病	1,000		7日	5回	14回（塗布は3回 灌注は6回 散布は5回）	
	黒かび病、そうか病	1,000～1,500					
	株枯病	500	1～10ℓ/株	前日	6回		灌注
キウイフルーツ	果実軟腐病	1,000	200～700ℓ/10a		5回	8回(塗布は3回、散布は5回)	散布
くり	実炭疽病	1,000～1,500		3日	4回	7回(塗布は3回、散布は4回)	
オリーブ	梢枯病	1,000		30日	2回	5回(塗布は3回、散布は2回)	
かんしょ	基腐病	200～500	—	貯蔵前～伏せ込み前	1回	1回	30分間採苗用種いも浸漬
	黒斑病			植付前			20～30分間種いも又は苗茎部浸漬
さといも、さといも(葉柄)							20～30分間種いも浸漬
ばれいしょ	菌核病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	7日	5回	5回(種いもへの処理は1回)	散布
やまのいも	葉渋病、炭疽病	800				5回	
やまのいも(むかご)				45日			
実えんどう さやえんどう	褐紋病、褐斑病、灰色かび病	2,000		前日	3回	4回（種子への処理は1回は種後は3回）	
いんげんまめ	角斑病、菌核病、苗立枯病	700～1,000		7日	4回	5回（種子への処理は1回は種後は4回）	
	炭疽病	700～1,500					
えんどうまめ	褐紋病、褐斑病、灰色かび病	1,500～2,000					
らっかせい	黒渋病、褐斑病、灰色かび病						
	そうか病、茎腐病	1,500					
あずき	輪紋病、炭疽病	700～1,000		14日			
	菌核病						
だいず	紫斑病	700～1,500				4回(種子への処理は1回)	
		種子重量の0.5%	—	は種前	1回		粉衣
えだまめ	菌核病	2,000	100～300ℓ/10a	7日	3回	4回（種子への処理は1回は種後は3回）	散布
水稲	ばか苗病	300～500	—	は種前(浸種前又は浸種後)	1回	3回(種子への処理は1回)	6～24時間種子浸漬
		30					10分間種子浸漬
小麦	雪腐病	1,000～2,500	60～150ℓ/10a	根雪前	3回（出穂期以降は2回）	4回（種子への処理は1回 散布及び無人航空機散布は合計3回 出穂期以降は2回）	散布
	雪腐大粒菌核病	1,000					
		250～500	25ℓ/10a				
	赤かび病	250		14日			
		1,000～1,500	60～150ℓ/10a				
	うどんこ病	1,000～2,000					
	眼紋病	1,000					
麦類(小麦を除く)	雪腐病	1,000～2,500		根雪前	3回（出穂期以降は1回）	3回（種子への処理は1回 出穂期以降は1回）	
	赤かび病	1,000～1,500		30日			
	うどんこ病	1,000～2,000					
	眼紋病	1,000					
まめ科牧草	菌核病	2,000	100～300ℓ/10a	根雪前	1回	1回	
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1,500～2,000			2回	2回	
茶	炭疽病、白星病、褐色円星病、輪斑病		200～400ℓ/10a	(摘採)7日	1回	1回	
	黒葉腐病	1,500					
てんさい	褐斑病	2,000～3,000	100～300ℓ/10a	7日	5回	5回	
なたね	菌核病	1,000		21日	3回(開花後は2回)	3回(開花後は2回)	
	雪腐菌核病			根雪前			
桑	裏うどんこ病、汚葉病	1,000～2,000		—	3回	3回	
	輪斑病	1,000～1,500					
桑(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前	1回		10分間根部浸漬
花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)	菌核病	1,500	100～300ℓ/10a	—	5回	5回	散布
トルコギキョウ	菌核病、斑点病						
ばら	うどんこ病、黒星病	1,500～2,000					
シクラメン さくらそう	灰色かび病						
ゆり	葉枯病、茎腐病						
きく	褐斑病						
カーネーション	芽腐病						
けいとう	茎腐病、輪紋病						
ほおずき、きんせんか	半身萎凋病						
樹木類	炭疽病	1,000～2,000	200～700ℓ/10a	発病初期			
	褐斑病(つつじ類) 幼果菌核病(さくら)	1,000～1,500					
	うどんこ病、ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌) 紫かび病(かし)、黒点病(じんちょうげ) 褐斑病(ぼけ) マルゾニナ落葉病(ポプラ) 枝枯病(いぬつげ)、赤枯病(すぎ)	1,000					
りんどう	花腐菌核病	1,500	100～300ℓ/10a	—			
観賞用アスパラガス	茎枯病	500～1,000					
べにばな	炭疽病	1,500			2回		
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.1%	—	植付前又は貯蔵前	1回		球根粉衣

作物名	適用場所	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数* 本剤	総使用回数* チオファネートメチル	使用方法
トマト	温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	灰色かび病	100～200g/10a	5ℓ/10a	前日	5回	6回（種子への処理は1回は種後は5回）	常温煙霧

本資料は2024年11月現在の登録内容に基づいています。